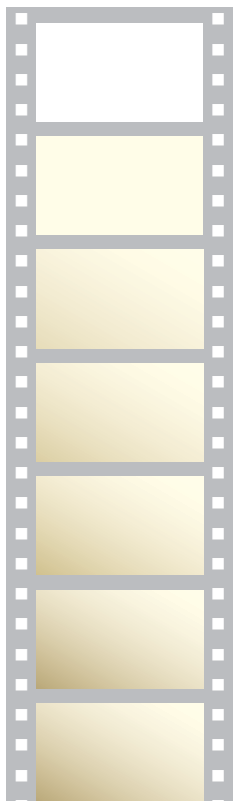


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



オー・ソレ・ミオ (私の太陽)

作曲 エドゥアルド・ディ・カプア

作詞 ギアヴァニ・カプロ

訳詞 徳永政太郎

はればれと ひかりさして
あらしすぎし あおきそらは うるわ
はればれと ひかりさす
されど なお かがやく
うるわしのひかりよ そのひかりこそ
いとしのすがたよ (以下略)

イツツ・ナウ・オア・ネヴァー

(IT'S NOW OR NEVER)

作曲 エドゥアルド・ディ・カプア

作詞 アーロン・シュローダー

ウォーリー・ゴールド

訳詞 川越 由佳

今を逃したらチャンスは二度とない

(IT'S NOW OR NEVER)

ここへ来て抱きしめて
ダーリン、キスをして
今夜、僕のものになっておくれ
明日では遅すぎるから (以下略)

「オー・ソレ・ミオ」はイタリアのナポリ民謡ですが、エルヴィス・プレスリーの歌う「イツツ・ナウ・オア・ネヴァー」はタイトルと歌詞が違うだけで曲は全く同じです。

60年（昭和35年）3月、陸軍を除隊したプレスリーが最初の録音で歌った曲で、入隊前プレスリーが聴くことができなかつたベルカント唱法（オペラに欠かせない洋楽発声の基本のひとつ）を使っています。

プレスリーにこのベルカント唱法を教えたのは、同じ部隊にいたチャーリー・ホッジという歌手でした。彼はプレスリーに「いい声をしているのに、どうして無理な発声法をしているの？」と問いかけるとプレスリーは「今さら他人ヒトに発声を習うわけにはいかない」と答えました。そこでチャーリーはプレスリーの発声の先生を買って出て、プレスリーはベルカント唱法を体得しました。

その後チャーリー・ホッジは、プレスリーが亡くなるその日まで彼の取り巻きスタッフとしてプレスリーを支えました。

ギネスブックによりますと、この「イツツ・ナウ・オア・ネヴァー」は、全世界

で二千万枚セールスし、エルヴィス・プレスリー最大のヒット曲となりました。

映画「天国と地獄」のなかのラジオ番組「ミッドナイトミュージック」で流れる「オー・ソレ・ミオ」は演奏だけですが、黒澤監督はこの曲をエルヴィス・プレスリーが「イツツ・ナウ・オア・ネヴァー」というタイトルでカバーをしているのを知っていて歌入りのほうを本当は使用したかったと「キネマ旬報」で語っています。それは、「映画のなかの時代にリアリティー（現実性）を持たそうとしたからではないか」とぼくは思うのです。

(了)

伸

平成24年1月